

# 平成 30 年度 山形県行政支出点検・行政改革推進委員会 第 3 回会議 委員の発言概要

◇ 日 時 平成 30 年 12 月 3 日 (月) 10:00~11:58

◇ 会 場 県庁 1001 会議室

◇ 出席委員

委員長 高橋和

委員 尾形律子、小口裕之、田中達彦、三木潤一

(欠席委員：清野洋輔、中鉢美佳、山上絵美)

〈五十音順、敬称略〉

## ■委員の主な意見等

### 議事 (1) 事務事業評価 (事業レベルのPDCA) について

〈発言順〉

#### ◆農林水産部「元気な農業経営による所得 1.3 倍プロジェクト事業費」について

(尾形委員)

- ・ アドバイザー派遣の29年度実績が目標を下回っているが、目標はどのように設定したものか。

(田中委員)

- ・ アドバイザー派遣の実績が目標を下回ったことを受けて、今後どのように対応していくか。

(小口委員)

- ・ 小規模稲作農家への支援事業の実績が目標を下回ったことについて、農業については短期間で成果を出すことが困難なところがあるが、どのように評価しているか。

#### ◆農林水産部「戦略的農産物販路・販売拡大事業費」について

(三木委員)

- ・ 地方主要 5 都市の県産青果物の取扱金額を毎年伸ばしていく目標となっているが、どのような根拠に基づいて設定されているか。
- ・ 産出量を伸ばすには、市場規模が変わらなければ、産地間の競争でパイを取り合うことになると思われるが、目標の達成は可能なのか。競争があることを踏まえて、シビアに考える必要があるのではないか。
- ・ 販売戦略を策定する 5 都市の中に関西圏が含まれていないが、関西圏に対してはどのように取り組んでいるか。

#### ◆農林水産部「園芸大国やまがた推進事業費」について

(田中委員)

- ・ 山形の農林水産物の強みは多様性にあり、ブランド化できるコンテンツが豊かにあるので、それを活かせるよう進めてほしい。

#### ◆農林水産部「やまがた森林ノミクス推進事業費」について

(田中委員)

- ・ 山形駅通路や山形空港の木質化されたところを目にするが、ただ木質にするだけでなく、それをどのように活用して県民へアピールしていくかを考えていくべき。

(高橋委員長)

- ・ 県民へのアピールのほか、県外にいる方にいかに山形の魅力を知ってもらうかという戦略はあるのか。

(小口委員)

- ・ 幼稚園に積み木を提供しているとのことだが、後継者の問題もあるので、木材に興味を持つ人が増えるよう、教育分野での取組を広げていくべき。

(高橋委員長)

- ・ 再造林率について、今年度50%の見込みに対して、平成32年度目標が100%とあるが、これほど短期間で目標率まで上げていけるか。
- ・ 森林事業は環境問題との関連があるため、そういう視点からの必要性の言及があってもいいのではないか。

#### ◆企画振興部「ICT利活用推進事業費」について

(田中委員)

- ・ 県庁の働き方改革へのICTの活用と、県内へのICTの普及の二つの目的があるが、県庁の働き方改革については、状況をどう捉えているか。

(三木委員)

- ・ アウトプットとアウトカムの関係性についてどう捉えているか。アウトカム目標を実現するために、アウトプットがこれだけ必要という流れで目標設定をすべき。

(高橋委員長)

- ・ テレワークとビッグデータ活用促進の二つの事業があるが、今回の評価にビッグデータ活用促進の評価は含まれているか。

#### ◆教育庁「地域に誇れる小規模校支援事業費」、「オリンピックメダリスト育成事業費」について

(高橋委員長)

- ・ 将来の山形を担う子どもたちの人材育成や、スポーツで活躍すると誇りを持つということによって将来に賭けるといふ事業になります。  
御意見等なければ、教育庁の協議は以上といたします。

#### 議事(2) 公社等の見直しについて

(尾形委員)

- ・ 山形鉄道について、観光客が前年度に比べ25%増加となったことは、経営的な効果としてはどのくらいのものか。また、今後どうやって収入を増やしていくのか。

(高橋委員長)

- ・ 山形鉄道について、なかなか鉄道事業だけで収益を上げていくことは難しいので、広域的な観光産業の事業などと連携をしていく必要があるのではないか。

以上